

2名出席（定款第33条、定足数＝14名（過半数以上））

4. 議長選出

会長が議長をつとめる（定款第32条）

5. 議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

6. 議 題

議案第1号 前回（6月22日開催）理事会議事録の承認について

以下のように異議なく承認された

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第2号 組織管理運営規程改定の考え方について

望月専務理事が配布資料を基に、考え方と方針を説明した。

組織体制については8月理事会時に具体的な案を示し、それを基に各委員会で審議し、9月20日までに報告を受け10月理事会において組織管理運営規程の体裁を含め改定を完了する予定であり、こうした流れを前提に次の議案の担務案を示すことを説明した。

また、委員会を最小のガバナンス単位ととらえ、委員長が委員会を掌握し、議案上程や支払い依頼等を代表して行うこと、主管理事は、担当委員会の人事権や財務権を所轄すること、主管理事と委員長が同一者ではないなどとの区分を明確にした。

議案第3号 各理事の担務について

望月専務理事が配布資料を基に説明し、その後決議をとり以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第4号 第3期基金募集事項案について

望月専務理事が、基金へ協力しても良いとの声があること、来年の年度末に対応しなければならないことから、昨年と同様に8月から9月にかけて、目標値の5000万円に足りない分（1280万円）の基金を募集する案について説明し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第5号 U I A A署名依頼への対応について

廣川副会長が、アイスクライミング競技の現状を画面に表示し、説明し、2030年冬季オリンピックの追加競技として推薦することに、N Fとして反対する理由がなく、支持するという提案について採決し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第6号 「JMSCAクライミング体験キャンプ in 鉾田」の開催について

栗田理事が配布資料をもとに説明し、町田会長と、畑中S C部長が、表敬訪問することの補足説明がされた。

本件は、S C普及委員会が所管しJMSCAが主催になり、主管が茨城県となることの審査を経たうえで理事会に提案され、承認という機関決定プロセスを経ることが必要であると指摘がされた。今後S C普及委員長が中心になって、委員会内で予算計画を含め、審査することが確認された。その後採決し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第7号 「DMG MORI Arena CUP」公

認大会申請承認依頼について

栗田理事が、配布資料をもとに説明した。

本件について、申請書類が、直接事務局に送付されてきたが、S C普及委員会として、書類の内容を確認することが必要なので、今後の書類の流れを含め手続きを整理することとした。その後、採決をとり、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成23名

議案第8号 補正予算の編成について

各専門部（S C部、SKIMO委員会、事務局）から、状況報告をした。

当初予算から、どう変わるか、口頭で説明がされ、8月の理事会に提出し、正式決定することを目標にすることを確認した。

議案第9号 国スポS C競技リード種目における競技運営方法の回答について

原理事が回答案について説明し、文書表現の一部を修正することを条件に、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成24名

議案第10号 JMSCAスポーツクライミング競技規則一部改正について

中橋理事が、S C技術委員会から提案されている改正案について説明し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成24名

議案第11号 2025 S C国際競技大会ユース日本代表選手選考基準改正について

畑中副会長が、S C強化委員会から提案されているユース日本代表選手選考基準改正の要旨〈3名から4名へ、2つの選考基準を1つの選考基準にまとめた〉を説明し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成24名

7. 報 告

報告第1号 6月末時点の主な収支及びキャッシュフローの状況

赤尾事務局長が、資料を基に説明する。

主な後質疑応答の概要

- ・年度末に予想される資金確保手段についての問いに対し、業務執行理事を中心に検討し、確実に対応していく旨の回答。
- ・当該内容をそのまま、各岳連に説明のために配布するか否かについては、別途検討する旨を回答。

報告第2号 2025年度JMSCAスポーツクライミング部ブロック研修会の受講料の一部変更について

原理事が、説明した。

報告第3号 S C部委員会名簿2025 国スポ委員会常任委員の変更について

原理事が、常任委員1名がはずれ、主管理事となり、総勢23から22名となり、常務理事会で承認されていることを報告した。

報告第4号 2025年度国スポブロック大会TD派遣について

原理事が、説明した。

報告第5号 第80回国スポ大会（青森）スポーツクライミング競技リハーサル大会開催申請について

原理事が、説明した。

報告第6号 「スポーツクライミングジャパンツアー 2025」について

栗田理事が、9月より開始できるよう準備

している旨説明した。

事業全体の収支が明瞭になっていないので、関係者に共有し、補正予算に反映するようにしてほしいとの要望がでた。

報告第7号 A選手登録のための義務研修について

栗田理事が、9月から開始予定である旨説明した。令和6年度とは違う講師を確定するため調整中である状況を補足説明した。

報告第8号 役員派遣ほか渉外等について（6月～8月）

町田会長が、イベント参加実績及び予定について説明した。

- ・モンベル設立50周年記念に参加
- ・全山遭への参加予定
- ・多久高校（J O C強化拠点）への訪問予定
- ・インターハイへの参加（全日技術顧問として野村理事参加）予定

8. 各委員会議事録について

望月専務理事が、クラウド（B o x）に格納整理予定と説明した。

9. 今後の予定

令和7年度 8月常務理事会

8月12日（火）

令和7年度 8月第6回理事会

8月14日（木）P M 1:00 からを予定

令和7年度 9月常務理事会

9月9日（火）

令和7年度 9月第7回理事会

9月11日（木）

10. その他

- ・岩手山クラウドファンディングへの協力に対し、吉田理事がお礼を述べた。
- ・昨年総会で決まった善管注意義務違反者の中で、解決金の履行がされていない者への対応について、検討したほうが良いのではとの発言があり常務理事会で別途検討することになった。
- ・7/17（木）から 7/24（木）は赤尾事務局長不在予定。
- ・JMSCAフレンドの状況と、今後の見通しをアナウンスしてほしい、システム仕様書、過去の要約（資料）を配布してほしい等の意見が出た。今後、会長名による文書を内容確認しだい発出予定、その他資料も個別対応予定となった。

以 上

令和7年7月10日

記録 赤尾浩一

お詫びと訂正

登山月報第675号の理事会報告で、6. 議題の議案第9号 覚書について、適切でない表現がございましたので以下のように訂正するとともにお詫びします。
（誤）交渉対応者の競技委員長の百瀬氏から特段の説明はなかった。
（正）事前の覚書の内容確認等が担当委員会になかったため、競技委員会が、先方と確認して対応することになった。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15, 16, 17	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

